

ApeosWare Management Suite 2

移行ガイド

- ①このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
- ②このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ③このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

「マニュアルと付属ツールについて」、「本書の表記」、および商標については、『セットアップガイド』を参照してください。

富士フイルムビジネスイノベーションに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。

フリーダイヤル 0120-27-4100

フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 ～ 12 時、13 ～ 17 時

フリーダイヤルは、海外からはご利用になれません。また、一部の IP 電話からはつながらないことがあります。

お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

インターネットホームページで商品情報を提供しています。

アクセス先は、https://www.fujifilm.com/fb/product/software/aw_manage_suite です。

もくじ

もくじ	2
-----------	---

1 アップデートインストール

概要	4
アップデートインストールの流れ	4
ライセンス認証について	4
注意事項	5
旧バージョンの環境をバックアップする	5
事前準備	5
フローを無効にする	6
ツールを終了する	6
アップデートインストールする	6

2 ApeosWare Management Suite 1.4 から 2.2 への移行

ApeosWare Management Suite 1.4 から 2.2 への移行について	11
移行対象の ApeosWare Management Suite ソフトウェア	11
移行可能なシステム構成	11
内部データの移行可否	12
バージョンアップの流れ	12
お客様環境のバックアップ	15
Flow Management 1.4 の移行データの取得	15
ApeosWare Management Suite 1.4 の移行データの取得	16
Flow Management 1.4 のライセンス解除	25
ApeosWare Management Suite 1.4 のライセンス解除	25
移行データのコピー	25
Update Service 1.4 のアンインストール	25
データベースのアンインストール	25
ApeosWare Management Suite 2.2 のインストール	25
Flow Management 2.2 のインストール	26
ApeosWare Management Suite 2.2/Flow Management 2.2 のバックアップ	26
データの移行	26
ApeosWare Management Suite 2.2 の設定	29
共有プリンターの作成	44
移行先設定のエクスポート	45
動作確認	45
Flow Management 1.4 のアンインストール	45
Print Management 1.4 のアンインストール	46

ApeosWare Management Suite 1.4 のアンインストール	46
移行ツールのログ	46
注意制限事項	46

1 アップデートインストール

ApeosWare Management Suite 2.0 以降のバージョンから、ApeosWare Management Suite 2.2 へのアップデートインストールについて説明します。

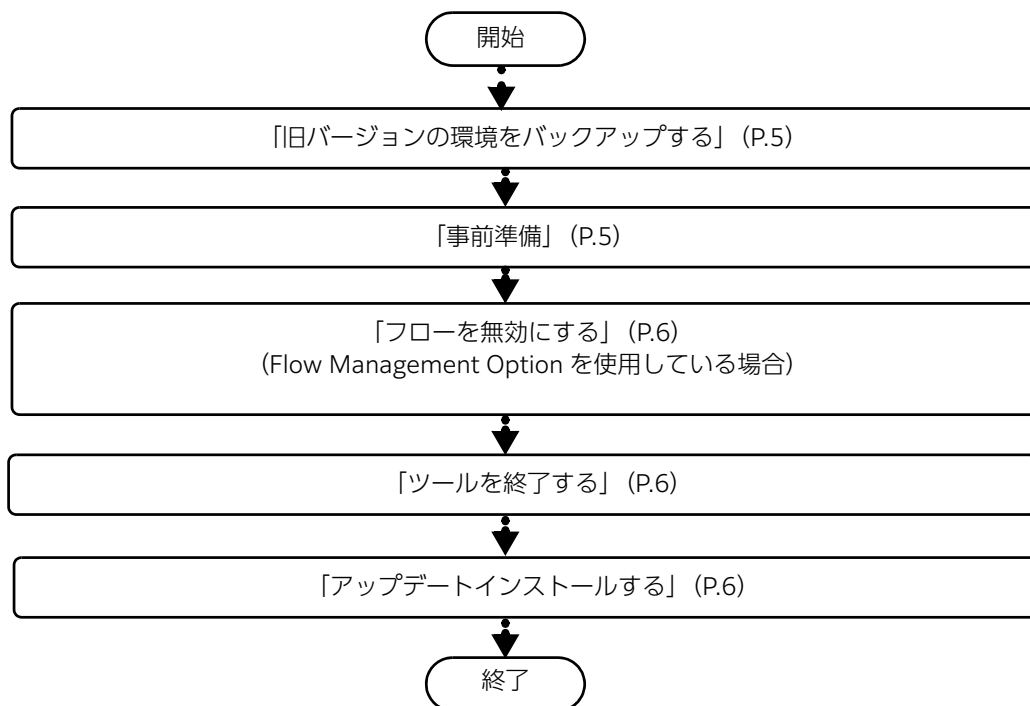
概要

アップデートインストールとは、インストールされている ApeosWare Management Suite のバージョンを新しいバージョンにアップデートすることです。

アップデート前のバージョンで設定した情報は、アップデート後も保持されます。登録したユーザーや機器、サーバーの設定など、アップデート後も引き続き使用できます。

アップデートインストールは、ApeosWare Management Suite 2.2 のインストールメディア（DVD-ROM）に同梱されている「Launcher.exe」で実行します。

アップデートインストールの流れ



ライセンス認証について

アップデート前のシリアル番号を、アップデート後も継続して使用できます。

アップデート前のバージョンになかったオプション機能を追加する場合は、新しくシリアル番号が必要です。シリアル番号の取得については、弊社担当者までお問い合わせください。

注意事項

- 使用する言語は変更できません。前バージョンと同じ言語を選択してアップデートインストールを実施してください。
- ApeosWare Management Suite のエディションは変更できません。
- サーバー構成は変更できません。分散構成の場合は、各サーバーのソフトウェアをすべてアップデートしてください。
なお、下記システム構成でのバージョンアップは対応しておりません。ご注意ください。
 - ・冗長化構成（Cold Standby 構成 / N システム構成 / ロードバランサー構成 / MSFC 構成 など）



補足

オールインワン構成の Cold Standby 構成 / N システム構成の場合は、本手順に従って、それぞれの PC でバージョンアップと移行作業を行い、再度システムを構成しなおすことで対応できます。

- SQL Serverはアップデートできません。DVD-ROMに同梱されているSQL Serverのインストーラーを使用してSQL Server をアップデートしないでください。
- アップデートインストールの作業中は、サービスの停止や PC の再起動が必要になるため、一時的にApeosWare Management Suite を使用できなくなります。業務時間中など、ApeosWare Management Suite を使用する時間に作業する場合は、ご注意ください。
- アップデートインストールのあと、Update Service を使用して、ApeosWare Management Suite 2.2 の最新パッチプログラムを適用してください。

旧バージョンの環境をバックアップする

アップデートは、ApeosWare Management Suite の情報を保持したまま実行されますが、情報が失われるリスクを軽減するため、アップデートする前に必ずバックアップを実施してください。

アップデートインストールに失敗した場合には、復旧するためにバックアップデータが必要になることがあります。



参照

『導入・運用ガイド』の「バックアップとリストア」

事前準備

アップデート前の環境をバージョンアップする

本 DVD-ROM でアップデート可能な対象バージョンは、2.1.4.0 以降と 2.2.0.0 以降です。最新版へのアップデートモジュールは、弊社ホームページから取得できます。

PC の環境を確認する

旧バージョンと、アップデート後のバージョンで、必要な環境が異なることがあります。

アップデートする PC が、アップデート後のバージョンの要件を満たしているかどうかを確認します。

また、次のサービスが起動していることを確認します。

- SQL Server ({インスタンス名})
- SQL Server Browser



参照

『セットアップガイド』の「必要な環境」

ウイルス対策ソフトウェアを停止する

ウイルス対策ソフトウェアが起動している場合、アップデートインストールの作業中は停止することをおすすめします。

フローを無効にする

Flow Management Option を使用している場合は、次の手順でフローを無効化します。

1. 実行中のジョブがある場合は、終了するのを待つかジョブを削除して、実行中のジョブがない状態にします。
2. [フロー一覧] ページで、すべてのフローを無効にします。



参照

『ApeosWare Management Suite 2 機能ガイド Flow Management Option 編』（以降、『機能ガイド Flow Management Option 編』と記載します）

ツールを終了する

ApeosWare Management Suite の各サーバー、Web クライアント、印刷クライアントで、次のツールが起動している場合は、すべて終了します。各ツールは任意の順位で終了できます。

- Update Service
- License Activator
- Data Input Console
- Diagnostics Utility
- Device Setup
- Printer Check
- ユーザー情報登録
- Job Log Analyzer
- Popup Messenger
- Paper Form Editor

アップデートインストールする

ApeosWare Management Suite の各サーバー、Web クライアント、印刷クライアントで、それぞれインストールされているソフトウェアをアップデートします。



補足

ApeosWare Management Suite をアップデートした後、Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite の画面が正しく表示されないことがあります。このような場合、Web ブラウザーのキャッシュを一旦削除してからお使いください。

各ソフトウェアのアップデート手順

各ソフトウェアのアップデート手順は次のとおりです。



補足

下記システム構成でのバージョンアップは対応しておりません。ご注意ください。
・冗長化構成（Cold Standby 構成 / N システム構成 / ロードバランサー構成 / MSFC 構成 など）



参照

サーバー構成ごとのアップデート順序については、「オールインワン構成のアップデート順序」(P.7)、および「分散構成のアップデート順序」(P.7) を参照してください。

1. 新バージョンの DVD-ROM を挿入して、「Launcher.exe」を起動します。
2. 言語を選択するウィンドウが表示された場合は、アップデート前と同じ言語を選択して、[OK] をクリックします。
3. [ApeosWare Management Suite] ウィンドウの「機能別一覧」または「ツール一覧」から、アップデートするソフトウェア名をダブルクリックします。
4. 以降は、画面の指示に従ってアップデートインストールを実施します。



補足

通常は OS の再起動は必要ありませんが、アップデートインストール中に OS の再起動を要求するメッセージが表示された場合は、必ず OS を再起動してから次のソフトウェアをアップデートしてください。

オールインワン構成のアップデート順序

オールインワン構成の場合のアップデート順序は、次のとおりです。



補足

Sentinel RMS License Manager for FX は、ApeosWare Management Suite と弊社のほかのソフトウェアのライセンスを管理します。

Sentinel RMS License Manager for FX がライセンスを管理する弊社のほかのソフトウェアをインストールしたままにする場合は、Sentinel RMS License Manager for FX をアンインストールできません。

Sentinel RMS License Manager for FX のアンインストールは、任意のタイミングで実施してください。

Sentinel RMS License Manager for FX は、ほかのソフトウェアで使用していないことを確認してから、次の手順でアンインストールしてください。

1. [コントロールパネル] を開いて、[プログラム] > [プログラムと機能] をクリックします。
2. インストールされているソフトウェアの一覧で、「Sentinel RMS License Manager for FX」を選択し、[アンインストール] をクリックします。
3. アンインストール開始の確認メッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。アンインストールが開始されます。処理が終了すると、完了のメッセージが表示されます。
4. [完了] をクリックします。

1. メインサーバーのソフトウェアを、次の順序でアップデートします。
 - (1) ApeosWare Management Suite をアップデートします。
 - (2) Update Service をアップデートします。
 - (3) Flow Management Option をアップデートします。

分散構成のアップデート順序

分散構成の場合のアップデート順序は、次のとおりです。設置しているサーバーに応じて実施してください。設置しているサーバーに応じて、必要な手順を実施してください。



Sentinel RMS License Manager for FX は、ApeosWare Management Suite と弊社のほかのソフトウェアのライセンスを管理します。

Sentinel RMS License Manager for FX がライセンスを管理する弊社のほかのソフトウェアをインストールしたままにする場合は、Sentinel RMS License Manager for FX をアンインストールできません。

Sentinel RMS License Manager for FX のアンインストールは、任意のタイミングで実施してください。

Sentinel RMS License Manager for FX は、ほかのソフトウェアで使用していないことを確認してから、次の手順でアンインストールしてください。

1. [コントロールパネル] を開いて、[プログラム] > [プログラムと機能] をクリックします。
2. インストールされているソフトウェアの一覧で、「Sentinel RMS License Manager for FX」を選択し、[アンインストール] をクリックします。
3. アンインストール開始の確認メッセージが表示されたら、[はい] をクリックします。アンインストールが開始されます。処理が終了すると、完了のメッセージが表示されます。
4. [完了] をクリックします。

1. メインサーバーのソフトウェアを、次の順序でアップデートします。

- (1) ApeosWare Management Suite をアップデートします。
- (2) Update Service をアップデートします。



メインサーバーをアップデートすると、データベースサーバーが自動的にアップデートされます。

2. プリントアプリケーションサーバー、プリント入出力サーバー、リモートレポートサーバー、リモート OCR サーバー、またはリモートモバイルサーバーのソフトウェアを、次の順序でアップデートします。

■ プリントアプリケーションサーバーがある場合

- (1) Print Application Server をアップデートします。
- (2) Update Service をアップデートします。

■ プリント入出力サーバーがある場合

- (1) Print Input/Output Server をアップデートします。
- (2) Update Service をアップデートします。

■ リモートレポートサーバーがある場合

- (1) リモートレポートサーバーの SSRS (SQL Server Reporting Services) をアップデートします。

■ リモート OCR サーバーがある場合

- (1) Remote OCR Server をアップデートします。
- (2) Update Service をアップデートします。

■ リモートモバイルサーバーがある場合

- (1) Remote Mobile Server をアップデートします。
- (2) Update Service をアップデートします。

3. フローサーバーのソフトウェアを、次の順序でアップデートします。

- (1) Flow Management Option をアップデートします。
- (2) Update Service をアップデートします。

ツールのバージョンアップ方法

次のツールがインストールされている場合は、次の作業を実施してバージョンアップしてください。

Paper Form Management がインストールされている場合

1. 「フォーム解析データ共有ツール」を使って、旧バージョンのフォーム解析データをエクスポートします。



参照

「フォーム解析データ共有ツール」については、『機能ガイド Flow Management Option 編』の「8. 付録」>「付属ツールについて」を参照してください。

2. 旧バージョンの Paper Form Management をアンインストールします。
3. 新バージョンの Paper Form Management をインストールします。
4. 手順 1 でエクスポートしたデータを、「フォーム解析データ共有ツール」を使って、手順 3 でインストールした新バージョンの Paper Form Management の環境にインポートします。

Paper Form Editor がインストールされている場合

1. {インストール先フォルダー} ¥Paper Form Editor¥system の中の次のファイルを、{インストール先フォルダー} 以外のフォルダーにバックアップします。
 - ControlParts.xcp
 - SystemDefinitionAttributeEN.xsf
 - SystemDefinitionAttributeJP.xsf

{インストール先フォルダー} は、初期設定を変更していない場合は次になります。

-64 ビット版 OS の場合
[C:¥Program Files (x86)¥Fuji Xerox¥ApeosWare MS 2]

-32 ビット版 OS の場合
[C:¥Program Files¥Fuji Xerox¥ApeosWare MS 2]
2. 旧バージョンの Paper Form Editor をアンインストールします。
3. 新バージョンの Paper Form Editor をインストールします。
4. 手順 1 でバックアップしたファイルを、手順 3 でインストールした {インストール先フォルダー} ¥Paper Form Editor¥system フォルダー下のものと置き換えます。
{インストール先フォルダー} は、初期設定を変更していない場合は次になります。
[C:¥Program Files (x86)¥FUJIFILM¥ApeosWare MS]

Solution Editor、Popup Messenger、OnDemand Print Terminal、Job Log Analyzer がインストールされている場合：

- (1) 旧バージョンの Solution Editor、Popup Messenger、OnDemand Print Terminal、Job Log Analyzer をアンインストールします。
- (2) 新バージョンの Solution Editor、Popup Messenger、OnDemand Print Terminal、Job Log Analyzer をインストールします。



補足

- Flow Management Option をアップデート後、初期設定のフォルダー以外を使用する場合は、『機能ガイド Flow Management Option 編』の「フォルダーを準備する」を参考に設定してください。
- ApeosWare Management Suite 2.2 にバージョンアップすると、ユーザーデータ格納先フォルダーのデータは、バージョンアップ時に指定した新しいフォルダーに移行されます。
ただし、次のフォルダーは、バージョンアップ前のフォルダーを使用していた場合、バージョンアップ後もそのフォルダーがそのまま使用されます。
『機能ガイド』または『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照し、適宜、新しいフォルダーに設定してください。
 - 一時保存フォルダー
初期設定を変更していない場合は、{データ格納先フォルダー} ¥Temp¥AWMS_Device_Tmp
 - ジョブログファイルの保存先
初期設定を変更していない場合は、{データ格納先フォルダー} ¥joblog
 - Flow Management の下記フォルダー

【フォルダー】 機能用のフォルダー

初期設定を変更していない場合は、{データ格納先フォルダー} ¥Flow Management¥folders¥input

【フォルダー保存】 機能用のフォルダー

初期設定を変更していない場合は、{データ格納先フォルダー} ¥Flow Management¥folders¥output

【文書属性の対応表出力】 機能用のフォルダー

初期設定を変更していない場合は、{データ格納先フォルダー} ¥Flow Management¥folders¥attrtable

- ・ ファイルインポートしたファイルの格納先

{データ格納先フォルダー} ¥User Management¥Import

{データ格納先フォルダー} は、インストール時に指定します。初期設定を変更していない場合は、{インストール先ドライブ} ¥Fuji Xerox¥ApeosWare MS 2 です。

ファイルインポートしたファイルの格納先を変更するには、ファイルインポートを実行します。『機能ガイド』の「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」を参照してください。

2 ApeosWare Management Suite 1.4 から 2.2 への移行

ApeosWare Management Suite 1.4 から 2.2 への移行について

移行ツールを使い、ApeosWare Management Suite 1.4 から ApeosWare Management Suite 2.2 にバージョンアップします。



補足

- ・対象バージョンは ApeosWare Management Suite 2.2 です。
- ・インストーラーの実行だけではバージョンアップはできません。
- ・同一 PC での移行の場合は、SQL Server をアンインストールする必要があります。このため ApeosWare Management Suite 1.4.x で使用しているデータベースをアンインストールする必要があります。
- ・移行先に ApeosWare Management Suite 2.2 をインストールする場合は、ApeosWare Management Suite 1.4 のライセンスが使用できません。ApeosWare Management Suite 2.2 用のライセンスを別途用意してインストールしてください。
- ・必要に応じてデータベースのバックアップをとることを推奨します。

移行対象の ApeosWare Management Suite ソフトウェア

移行元：バージョン 1.4.0.23 以降の ApeosWare Management Suite

移行先：バージョン 2.2.1.0 以降の ApeosWare Management Suite 2



補足

このバージョン以降からアップデートする場合は、富士フイルムビジネスイノベーションのホームページから最新の情報を参照してください。

移行可能なシステム構成

オールインワン構成 / フローサーバーを分離する構成

ApeosWare Management Suite 1.4 のオールインワン構成は ApeosWare Management Suite 2.2 オールインワン構成に、ApeosWare Management Suite 1.4 フローサーバーを分離する構成は ApeosWare Management Suite 2.2 フローサーバーを分離する構成に対応しています。これら以外の構成は、移行できません。

内部データの移行可否

本ツールによって移行される ApeosWare Management Suite データは以下のとおりです。移行ツールで移行されないデータについては、移行後に手動で設定する必要があります。詳細な手順は、後述の移行手順を参照してください。

カテゴリ	本ツールで移行できるもの	移行後に、手動で設定する必要があるもの	移行できないもの
Identity Management	ローカルユーザー ローカルユーザーグループ	外部ユーザー 外部ユーザーの ApeosWare Management Suite 属性値 外部ユーザーグループ システム設定 サブユーザー	-
Device Management	機器情報 機器グループ プリンター情報 / 管理者情報 宛先 ボックス	利用権限（本体認証） システム設定	AccountID ファイル情報
Log Management	ジョブログ収集設定	ジョブログ（ファイル） システム設定	ジョブログ（DB）
Authentication Management	-	利用権限 システム設定	上制限（*1）
Print Management	物理プリンター 論理プリンター（*2）	システム設定	プリントモード ジョブ
Flow Management	-	フロー定義 システム設定	ジョブ
Update Date Service	ドライバーデータ	-	-

*1 上制限の実績値も移行されません。

*2 移行後、プリントサーバーとの関連付け、機器グループまたは機器との関連付けが必要です。

バージョンアップの流れ

ApeosWare Management Suite 2.2 へのバージョンアップの流れは、次のとおりです。

別 PC での移行の場合

Step 1:

お客様環境のバックアップ

「お客様環境のバックアップ」(P.15) 参照

Step 2:

Flow Management 1.4 の
移行データの取得

「Flow Management 1.4 の移行データの取得」(P.15) 参照

Step 3:

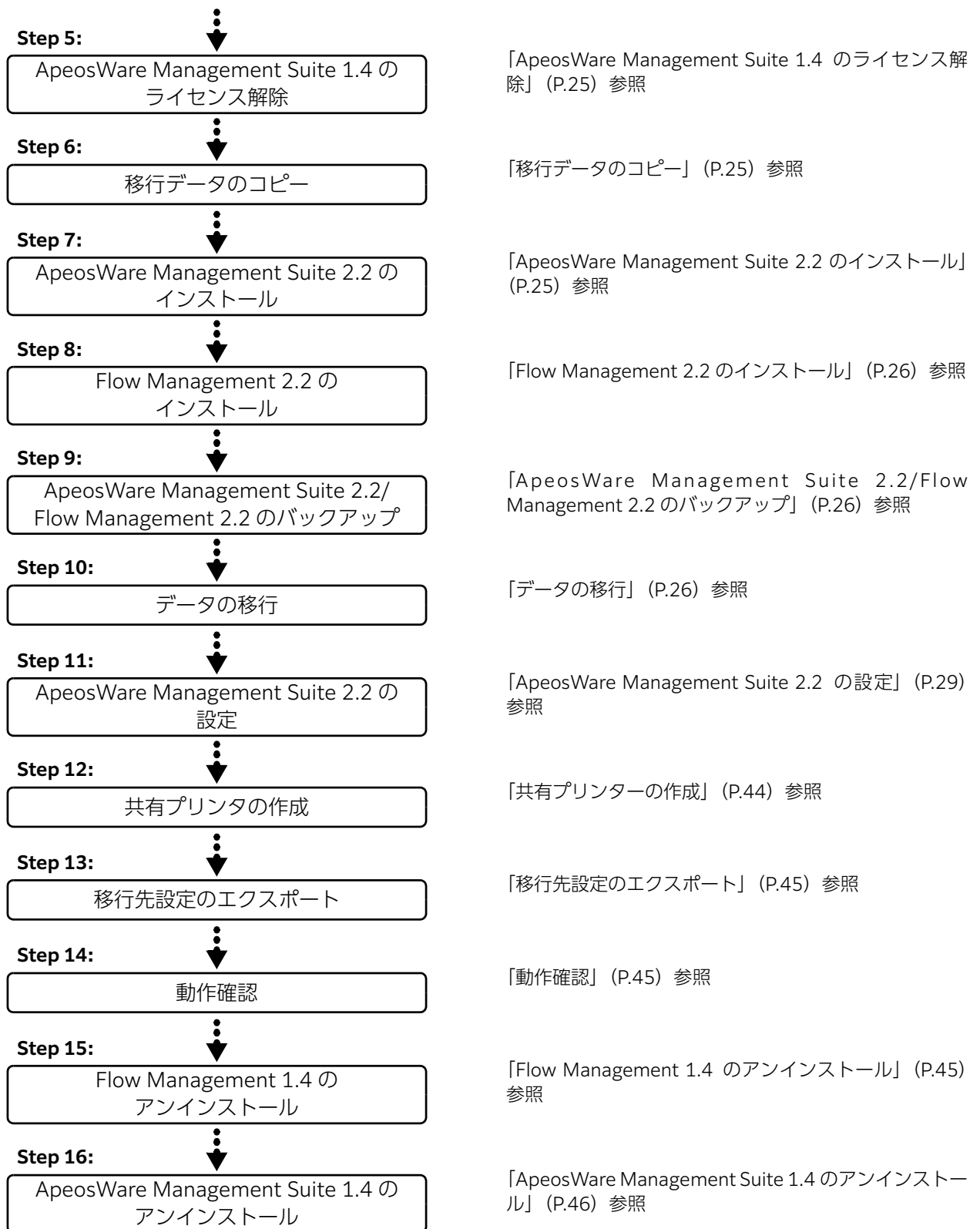
ApeosWare Management Suite 1.4 の
移行データの取得

「ApeosWare Management Suite 1.4 の移行データの取得」(P.16) 参照

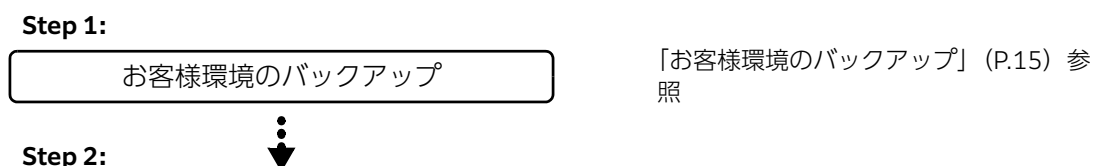
Step 4:

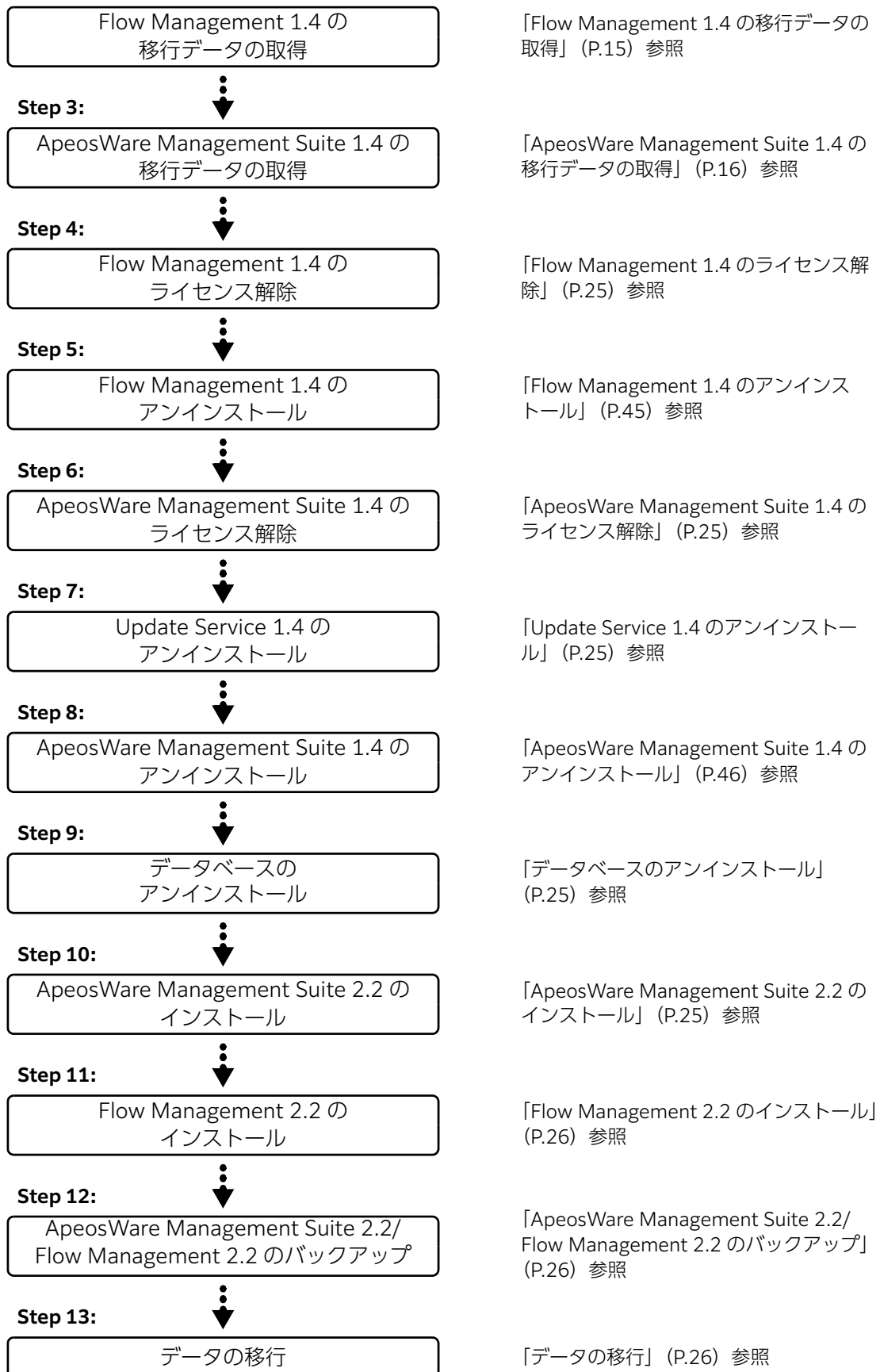
Flow Management 1.4 の
ライセンス解除

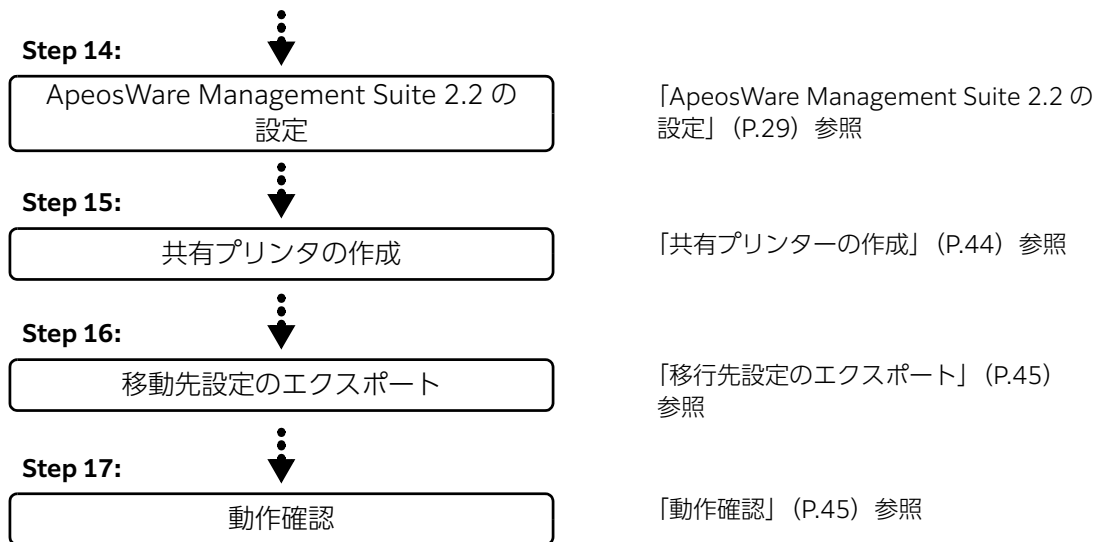
「Flow Management 1.4 のライセンス解除」(P.25) 参照



同一 PC での移行の場合







お客様環境のバックアップ

移行作業で旧環境の復旧が必要になる場合に備え、Virtual Machine イメージのバックアップ、または ApeosWare Management Suite のバックアップリストツールなどを使い、お客様の ApeosWare Management Suite 環境のデータをバックアップしてください。

Flow Management 1.4 の移行データの取得

移行に際して、Flow Management 1.4 での準備作業が必要です。

1. 共有システム ID ファイルをダウンロードします。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「2. フローの環境設定」>「フローの使用環境を設定する」>「共有システム ID ファイルをダウンロードする」

2. フロー作成者ユーザーの確認をします。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「2. フローの環境設定」>「[フロー作成者] を設定する」

3. 移行対象のフローの権限設定の確認をします。

Flow Management のフロー一覧画面を開き、移行したいすべてのフローに対して、下記作業を実施します。

- (1) 該当フローのプロパティ画面を表示します。
- (2) 該当フローの「操作権限」タブを開き、フローに対して設定されている下記権限の「ユーザー ID」と「ユーザー名」をメモします。
 - ・所有者
 - ・利用者（ジョブの登録）
 - ・利用者（ジョブの登録と操作）



補足

フロー定義に付与されているユーザー情報は自動で移行されないため、移行後、同じユーザーになるよう設定し直す必要があります。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「1. Flow Management の概要」>「Flow Management の操作権限」

4. 移行対象のフローのダウンロードをします。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「3. フローの設定」>「フローを操作する」>「フローをダウンロードする」

5. フォーム解析機能を使用している場合は、次の手順も行います。

(1) Paper Form Management で作成済みのリソースグループの名前をメモします。



補足

『ApeosWare Management Suite 1.4 管理者ガイド Flow Management 編』の「リソースグループ/フォームを作成する」>「新規リソースグループを作成する」の「リソースグループ一覧」ページで、作成されているすべてのリソースグループの名前をメモしておきます。

(2) Paper Form Management で、作成済みの各リソースグループに登録されているフォームテンプレートをすべてダウンロードします。



補足

- ・『ApeosWare Management Suite 1.4 管理者ガイド Flow Management 編』の「リソースグループ/フォームを作成する」>「フォームを作成する」の「リソースグループ一覧」ページで、各リソースグループを選択し、「フォームテンプレート一覧」ページにて、各リソースグループに登録されている、すべてのフォームテンプレートをダウンロードします。
- ・別 PC にインストールした Paper Form Management に、同じリソースグループに同じフォームテンプレートを登録し、フォームを生成してください。
- ・どのリソースグループに、どのフォームテンプレートが登録されているかも、メモしておいてください。

6. フローサーバーを分離する構成の場合は、移行ツールを使って、フローサーバー用の設定リストファイル (P.31) を取得します。

「移行ツールを使った ApeosWare Management Suite 1.4 のバックアップ」の手順を参照し、分離フローサーバーで移行ツールを実行してください。

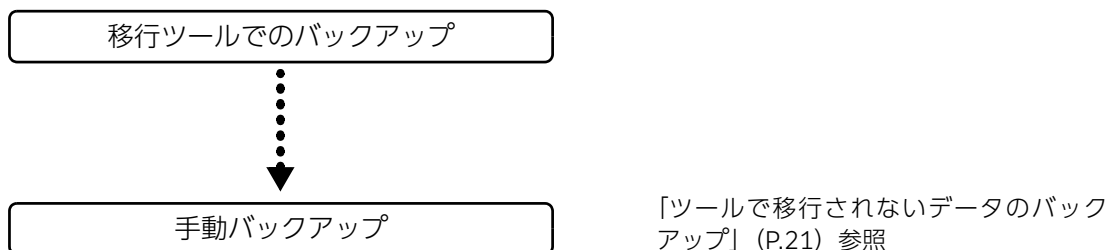


参照

「移行ツールを使った ApeosWare Management Suite 1.4 のバックアップ」(P.16)

ApeosWare Management Suite 1.4 の移行データの取得

バックアップの流れ



移行ツールを使った ApeosWare Management Suite 1.4 のバックアップ

以下の手順でデータベースおよび ApeosWare Management Suite のバックアップデータを収集します。

1. ApeosWare Management Suite 1.4 をインストールした PC に Administrator ユーザーでログオンします。

2. ApeosWare Management Suite 2.2 インストールメディアを移行元 (ApeosWare Management Suite 1.4) のメインサーバーに挿入し、.NET Framework 4.6 をインストールします。

(1) ApeosWare Management Suite 2.2 インストールメディア内の以下のフォルダーを開きます。{メディ

アのルート} %cm%apeos%basic%DotNetFrameWork46

(2) ndp462-kb3151800-x86-x64-allos-enu.exe を実行し、移行元 (ApeosWare Management Suite 1.4) サーバーに .NET Framework 4.6 をインストールします。

3. ApeosWare Management Suite 2.2 のインストールメディアに同梱された、以下のフォルダーを任意のフォルダーにコピーし、MigrationTool.exe を実行します。

<root> (インストールメディアのルート) %migrationtools%awms



本ツールを実行する場合は、インストールされている ApeosWare Management Suite 1.4 機能のサービスが、すべて起動されている必要があります。起動されていない場合は、Windows のサービスコントロールマネージャーから、すべてのサービスを起動してください。

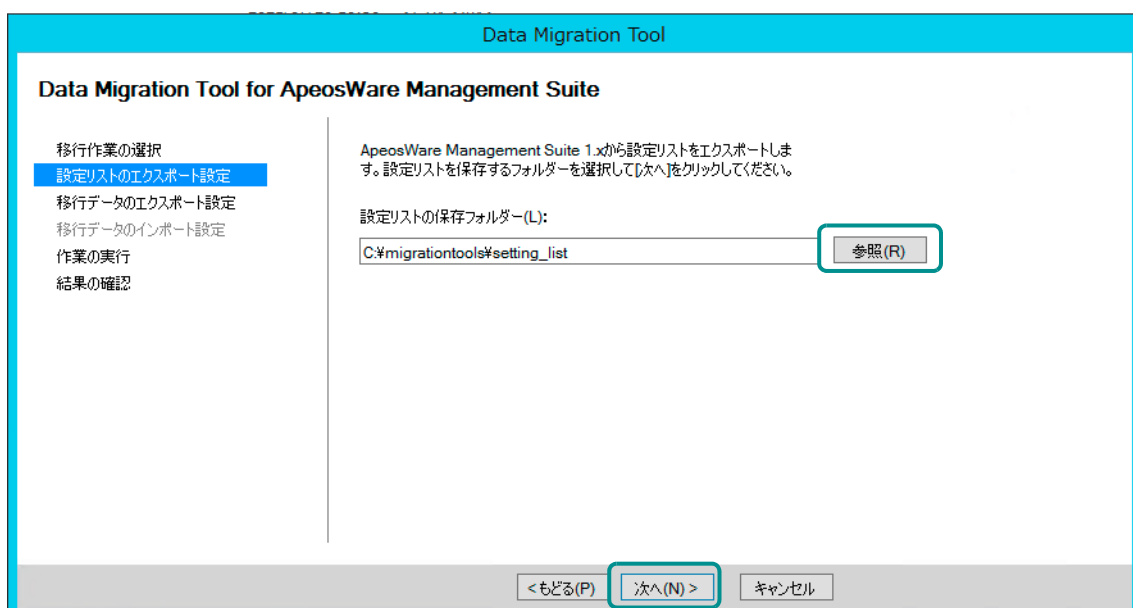
4. 移行ツールが起動します。

必要に応じて表示言語を切り替えます。

5. [ApeosWare Management Suite 1.x からデータをエクスポート] を選択し、[次へ] をクリックします。



6. [参照] をクリックして設定リストファイルの保存先を指定したあと、[次へ] をクリックします。





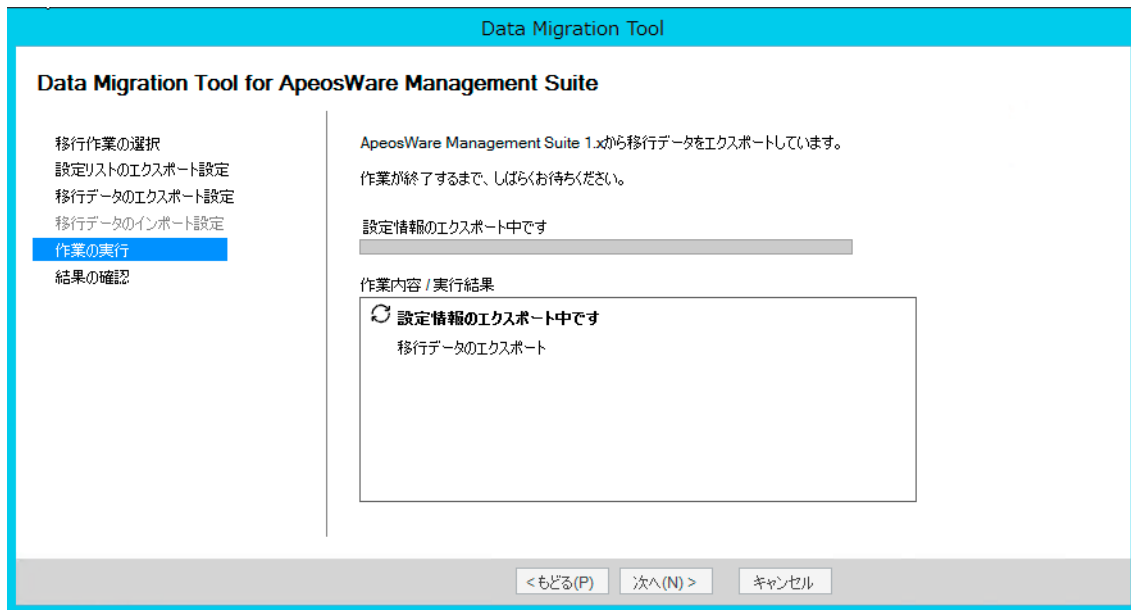
デスクトップのフォルダーなど、保存先によっては、設定リストの保存フォルダーに対して、NETWORK SERVICE ユーザーの読み取り権限と書き込み権限を設定する必要があります。

7. [参照] をクリックして移行データファイルの保存先を指定し、[次へ] をクリックします。



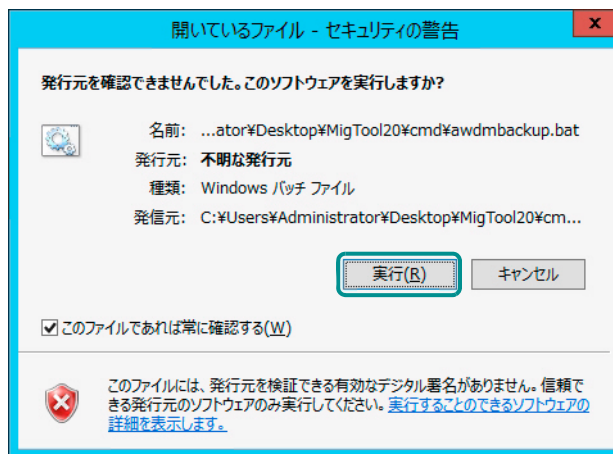
デスクトップのフォルダーなど、保存先によっては、移行データの保存フォルダーに対して、NETWORK SERVICE ユーザーの読み取り権限と書き込み権限を設定する必要があります。

8. プログレスバーの表示とともに、データのエクスポートが開始されます。 作業が完了するまで、しばらく時間がかかります。

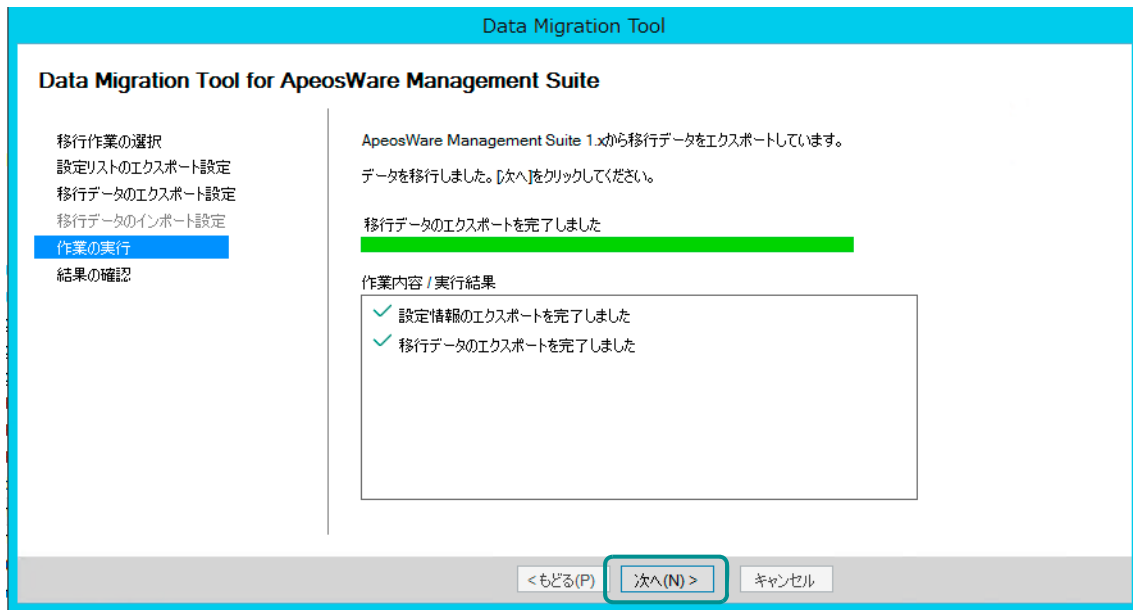


補足

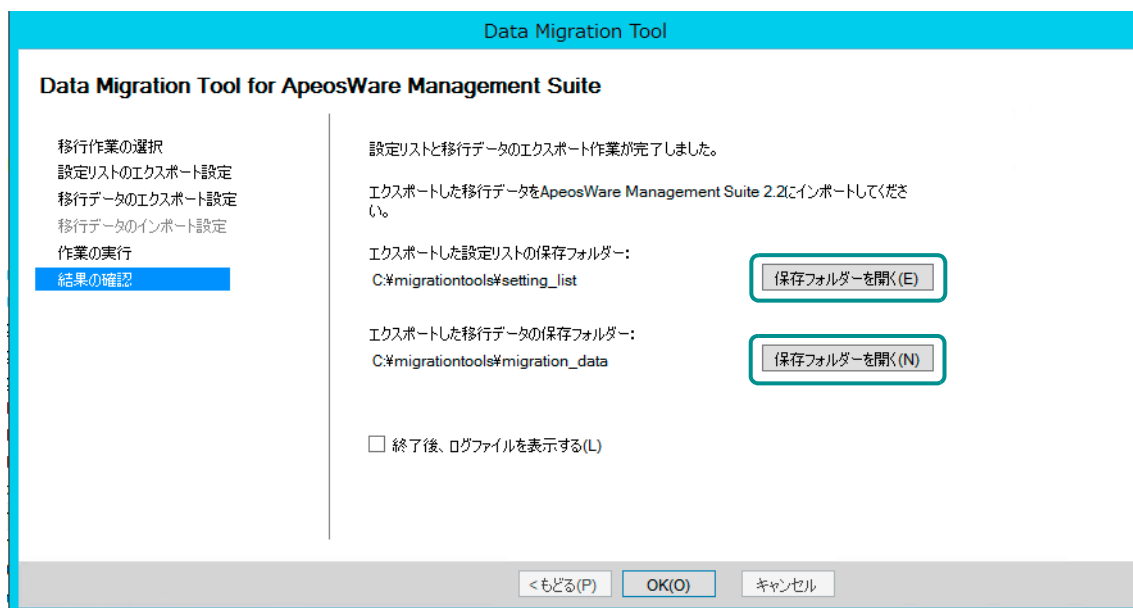
ファイル出力中にダイアログボックスが表示されることがあります。このときは、[実行] をクリックして処理を続行します。



9. 移行が完了すると、以下の画面に遷移します。
[次へ] をクリックします。



10. [保存フォルダーを開く] をクリックして設定リストファイル、移行データファイルの保存フォルダーを開き、「migration」フォルダーおよび「setting_list」フォルダーごと任意の場所に保存します。



補足

移行ツールが出力するファイル構造（デフォルトは、C:¥awms¥）

```

└─[migration_data]      ( 設定リストファイル )
  │ └─[backup_yyyymmdd-hhmmss**1]
  │   │ └─[IM]
  │   │   └─( ユーザー情報   バックアップファイル )
  │   │   ...
  │   │   └─[DM]
  │   │   └─( 機器情報     バックアップファイル )
  │   │   ...
  │   │   └─[PM]
  │   │   └─( 機器情報     バックアップファイル )
  │   │   ...
  └─[setting_list]      ( 移行データファイル )
    └─[setting_yyyymmdd-hhmmss]
      └─[( 移行元のバージョン番号 )]
        └─IdentityManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv
        └─DeviceManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv
        └─LogManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv
        └─PrintManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv
        └─FlowManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv
        ...

```

*1 yyyymmdd-hhmmss は、年月日 _ 時分秒を示します。

ツールで移行されないデータのバックアップ

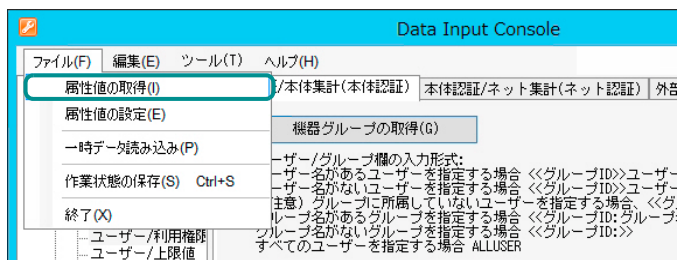
バックアップの流れは次のとおりです。



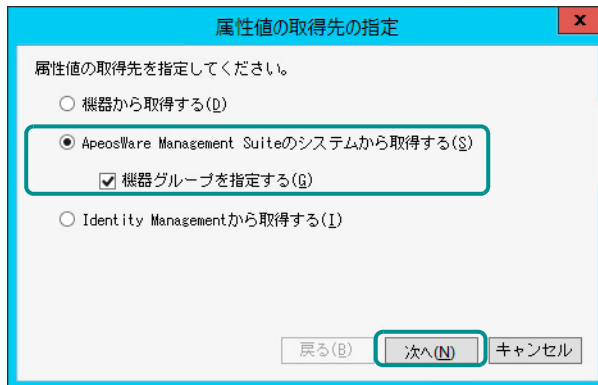
Data Input Console (1.4 用) を使った設定のエクスポート

1. 移行元環境に Data Input Console (1.4 用) をインストールします。
2. Data Input Console を起動します。
3. ApeosWare Management Suite のシステムから以下の情報を取得します。
 - [機器管理] > [ユーザー / 利用権限] (本体認証)
 - [機器管理] > [ユーザー / 利用権限] (外部認証)

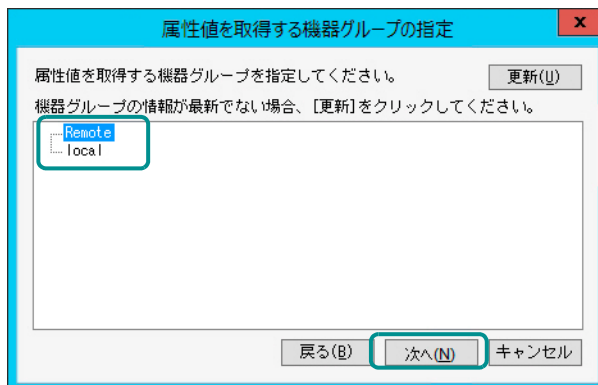
(1) [ファイル] > [属性値の取得] の順にクリックします。



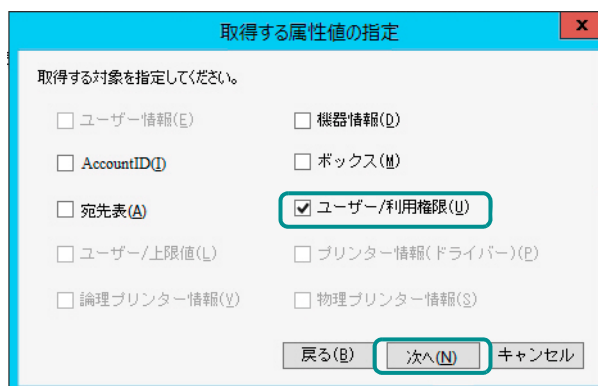
(2) 画面のように指定し、[次へ] をクリックします。



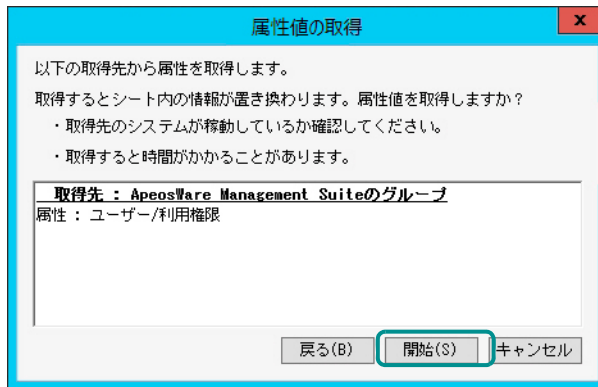
(3) 利用権限情報を取得する機器グループを選択し、[次へ] をクリックします。



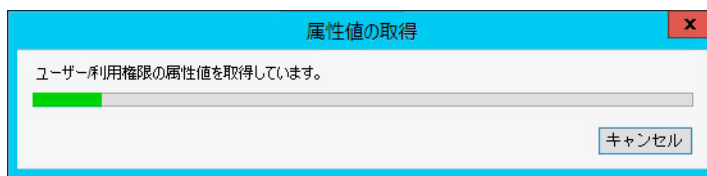
(4) [ユーザー / 利用権限] にチェックマークを付け、[次へ] をクリックします。



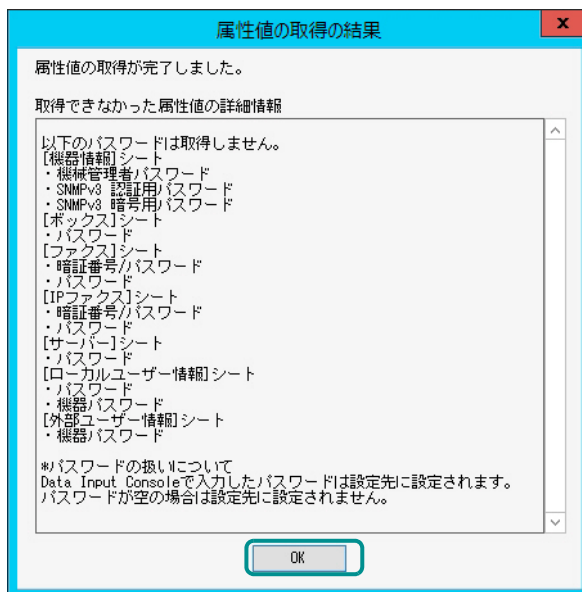
(5) 内容を確認し、[開始] をクリックします。



(6) データ取得が完了するまでしばらく待ちます。



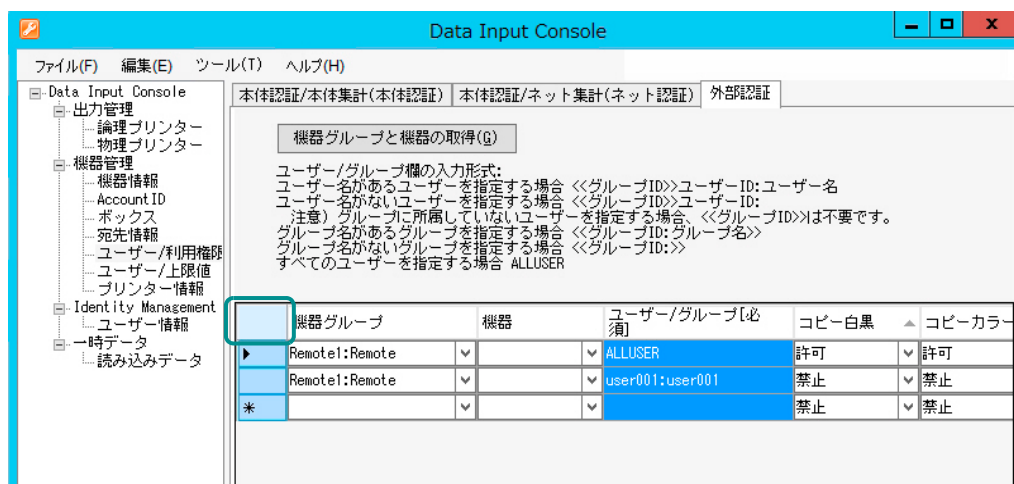
(7) 取得結果が表示されます。
内容を確認し、[OK] をクリックします。



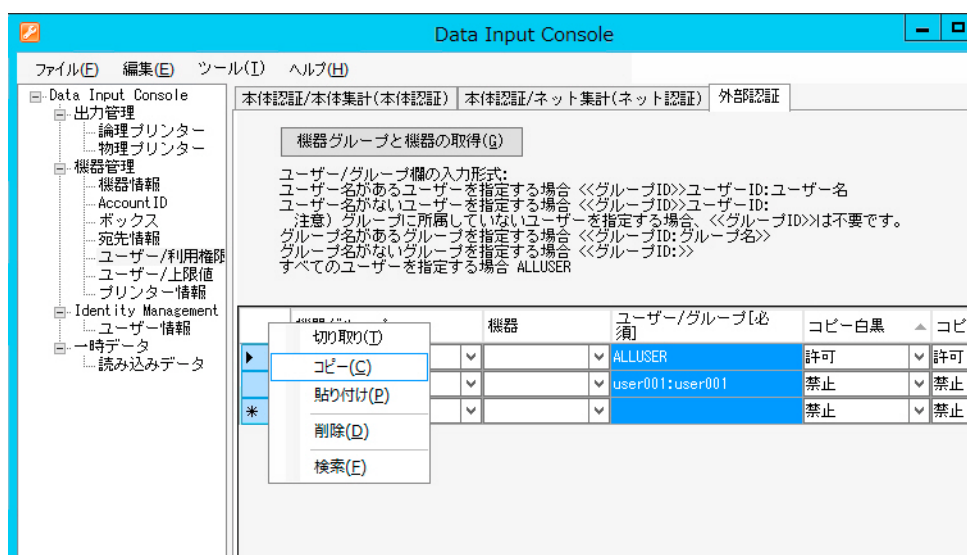
(8) すべての機器グループに対し、(1) ~ (7) を繰り返します。

4. 以下の手順を行い、本体認証の利用権限情報を Excel ファイルとして作成します。

(1) Data Input Console のマーキングした箇所をクリックします。



(2) キーボードまたはマウスを使い、すべての設定データをコピーします。



(3) Excel のワークシートにコピーしたデータをそのまま貼り付けます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	Local:local	ALLUSER	許可		許可		許可		許可		許可		許可		許可
2	Local:local	user001	禁止		禁止		禁止		禁止		禁止		禁止		禁止
3															
4															
5															
6															

(4) Data Input Console の見出しを参考に、Excel の 1 行目に見出しを追加します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	機器グループ	ユーザー/グループ	コピー白黒	上限値	コピーカラー	上限値	プリント白黒	上限値	プリントカラー	上限値	スキャン白黒	上限値	スキャンカラー	上限値	ファクス
2	Local:local	ALLUSER	許可		許可		許可		許可		許可		許可		許可
3	Local:local	user001	禁止		禁止		禁止		禁止		禁止		禁止		禁止
4															
5															
6															
7															

(5) 任意のファイル形式で保存します。

5. 手順 4 を参考に、外部認証の利用権限情報を Excel ファイルとして作成します。

ファイルのコピー

以下のファイルを、手動でコピーまたはダウンロードします。

- ジョブログファイル



『ApeosWare Management Suite 2 機能ガイド』（以降、『機能ガイド』と記載）の「2. システム設定 / サーバーの監視」 > 「Web ブラウザーからの設定」 > 「ジョブログ設定」 > 「ジョブログファイルの保存」

- 利用権限



「Data Input Console(1.4用)を使った設定のエクスポート」(P.21) で作成した利用権限情報のExcelファイル。

Flow Management 1.4 のライセンス解除

Flow Management 1.4 の認証済のライセンスをすべて解除し、削除してください。

ApeosWare Management Suite 1.4 のライセンス解除

ApeosWare Management Suite 1.4 の認証済のライセンスをすべて解除し、削除してください。

移行データのコピー

移行先の PC に、バックアップ作業で生成、取得、メモした ApeosWare Management Suite 1.4 と Flow Management 1.4 の移行データをコピーしてください。

Update Service 1.4 のアンインストール

Update Service 1.4 がインストールされている場合は、アンインストールしてください。

データベースのアンインストール

インストールされている SQL Server と、これらに関連するモジュールをすべてアンインストールしてください。

SQL Server 2008 のアンインストール手順

1. Microsoft SQL Server 2008 R2 をアンインストールします。
2. Microsoft SQL Server 2008 R2 Native Client をアンインストールします。

SQL Server 2012 のアンインストール手順

1. Microsoft SQL Server 2012 をアンインストールします。
2. Microsoft SQL Server 2012 Native Client をアンインストールします。
3. Microsoft Visual C++ 2010 x64 Redistributable をアンインストールします。
4. Microsoft Visual C++ 2010 x86 Redistributable をアンインストールします。

ApeosWare Management Suite 2.2 のインストール

ApeosWare Management Suite 2.2 のインストールを行います。



・ ApeosWare Management Suite のバージョンが、2.2.1.0 以降になっていることを確認してください。

- ・移行元のバージョン 1.4 のソフトウェア構成と同一になるよう、インストールを完了させてください。
- ・移行元の PC に Update Service がインストールされていた場合は、ここで Update Service もインストールしてください。
- ・インストールに使用するライセンスは、ApeosWare Management Suite 2.2 用のライセンスを指定してください。
- ・「データの移行」(P.26) を実施する前に、移行先のシステム構成に必要なライセンスは、すべて登録してください。

Flow Management 2.2 のインストール

Flow Management 2.2 のインストールを行います。「Flow Management 1.4 のデータのバックアップ」でダウンロードした共有システム ID ファイル をインストール時に指定します。インストール手順については、『セットアップガイド』の「1. セットアップ」を参照してください。



補足

- ・ Flow Management のバージョンが、2.2.1.0 以降になっていることを確認してください。
- ・ 共有システム ID ファイルを指定しないとフローが移行できません。
- ・ フォーム解析機能を使用している場合は、Paper Form Management もインストールしてください。
- ・ インストールに使用するライセンスは、Flow Management 2.2 用のライセンスを指定してください。
- ・ 「データの移行」(P.26) を実施する前に、移行先のシステム構成に必要なライセンスは、すべて登録してください。

ApeosWare Management Suite 2.2/Flow Management 2.2 のバックアップ

ApeosWare Management Suite 2.2 のバックアップコマンドを使って、ApeosWare Management Suite 2.2/Flow Management 2.2 のバックアップを行います。詳細は『機能ガイド』の「12 メンテナンス」>「バックアップとリストア」を参照してください。

移行ツールでの移行に失敗した場合には、ApeosWare Management Suite 2.2 のリストアコマンドを使って、ApeosWare Management Suite 2.2/Flow Management 2.2 のリストアを行い、移行ツール実行前の状態に復元します。

データの移行

ApeosWare Management Suite 2.2 移行ツールを実行し、ApeosWare Management Suite 1.4 から ApeosWare Management Suite 2.2 へデータを移行します。

1. ApeosWare Management Suite 2.2 をインストールした PC に、Administrators グループのユーザーでログインします。
2. ApeosWare Management Suite 2.2 のインストールメディアに同梱された、以下のフォルダーを任意のフォルダーにコピーし、MigrationTool.exe を実行します。
<root> (インストールメディアのルート) ¥migrationtools¥awms



補足

- ・ 本ツールを実行する場合は、インストールされている ApeosWare Management Suite 2.2 機能のサービスが、すべて起動されている必要があります。起動されていない場合は、Windows のサービスコントロールマネージャーから、すべてのサービスを起動してください。
- ・ 移行先の ApeosWare Management Suite 2.2 に、ユーザーグループ（除く既定グループ）と機器グループが作成されていた場合は、データが正しく移行されません。ユーザーグループまたは機器グループが作成されていた場合は、削除してから移行作業を実施してください。

3. 移行ツールが起動します。
必要に応じて表示言語を切り替えます。
4. 以下の画面に遷移します。

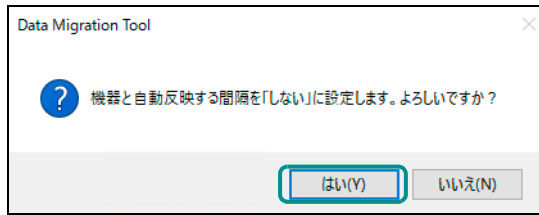
[ApeosWare Management Suite 1.x からデータをインポート] を選択し、[次へ] をクリックします。

5. [移行データのインポート設定] で、次に示す項目を指定し、[次へ] をクリックします。

設定項目	説明	設定可能範囲
[機器から収集するジョブログの対象]	移行後に機器から収集するジョブログの期間を指定します。集計対象のジョブログがすべて機器に残っている場合は、移行後に記録されたジョブログを、それ以外の場合は、機器のすべてのジョブログを対象にします。  補足 移行前の環境と移行後の環境は併用できません。	・[移行後に記録されたジョブログのみ] (デフォルト) ・[移行前に記録されたジョブログも含める]
[機器に反映するデータの対象]	必要に応じて、移行後に機器を再反映するかどうかを指定します。	・[移行後に変更したデータのみ] (デフォルト) ・[移行したデータも含む (移行後に移行したデータの機器への反映処理が実行されます)]



設定によっては以下のダイアログボックスが表示されることがあります。[はい] をクリックしてください。



6. プログレスバーの表示とともに、データの移行が開始されます。
 [移行完了処理を完了しました] と表示されたら、[次へ] をクリックしてください。



移行先の ApeosWare Management Suite に、すでに移行元と重複したデータが登録されている場合、そのデータは移行されません。同じデータであるかどうかは下記の表を参照してください。

移行データの種類	識別するデータ
機器	プロダクトコードとシリアル No の複合キー、ホスト名
機器グループ	機器グループ ID
物理プリンター	PrinterName プロパティ
論理プリンター	PrinterName プロパティ
ユーザー	ユーザー ID
ユーザーグループ	ユーザーグループ ID
宛先表	短縮登録番号と機器グループの ID の複合キー
親展ボックス	親展ボックス番号と機器グループ ID の複合キー

7. 以下の画面に遷移します。
移行結果を確認して、[OK] をクリックします。



8. [完了] をクリックします。

ApeosWare Management Suite 2.2 の設定

次の流れに従って、各種の情報を Web ブラウザーの操作画面などから手動で ApeosWare Management Suite 2.2 に設定します。

Step1:

Flow Management のデータ移行

「Flow Managementのデータ移行」(P.30) 参照

Step2:

論理プリンター移行後の手動設定

「論理 プリンター 移行後の手動設定」(P.30) 参照

Step3:

設定ファイルを開く

「設定ファイルを開く」(P.31) 参照

Step4:

システム管理の設定

「システム管理の設定」(P.31) 参照

Step5:

ユーザー管理の設定

「ユーザー管理の設定」(P.33) 参照

Step6:

機器管理の設定

「機器管理の設定」(P.38) 参照

Step7:

ジョブログ管理の設定

「ジョブログ管理の設定」(P.40) 参照

Step8:

プリント管理の設定

「プリントの管理設定」(P.42) 参照

Step9:



フロー管理の設定

「フロー管理の設定」(P.42) 参照

Flow Management のデータ移行

「Flow Management 1.4 の移行データの取得」(P.15) でエクスポートしたフロー定義を Flow Management 2.2 にアップロードします。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「3. フローの設定」>「フローを操作する」>「フローをアップロードする」



補足

Flow Management のフローをダウンロード / アップロードした場合、フローが保持するユーザー情報やデバイス情報に不整合が発生する可能性があります。移行作業でフローをアップロードした場合、必ずアップロードしたフローを編集画面で確認し、必要な修正を実施してください。

フォーム解析機能を使用している場合は、Paper Form Management でバックアップしたフォームテンプレートを、同じリソースグループに登録し直し、フォームを作成し直します。



補足

移行後は、Flow Management 1.4 で作成したフォームは使用できません。移行した環境で作成したフォームをダウンロードしてお使いください。

1. Flow Management 1.4 のバックアップ時にメモしたリソースグループを、Paper Form Management で作成します。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「6. Paper Form 機能」>「リソースグループ / フォームを作成する」>「新規リソースグループを作成する」

2. 手順 1 で作成した各リソースグループに、Flow Management 1.4 のバックアップ時にダウンロードしたフォームテンプレートを登録します。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「6. Paper Form 機能」>「リソースグループ / フォームを作成する」>「新規フォームテンプレートを登録する」



補足

Flow Management 1.4 のバックアップ時にメモしたリソースグループに、フォームテンプレートを登録し直してください。

3. 手順 2 で登録したフォームテンプレートからフォームを作成します。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「6. Paper Form 機能」>「リソースグループ / フォームを作成する」>「フォームを作成する」

論理プリンター移行後の手動設定

Print Management から論理プリンターへ移行した場合、ApeosWare Management Suite 2.2 では論理プリンターに対して、以下の関連付けの作業を行います。

- プリントサーバーとの関連づけ

- 機器グループまたは機器との関連づけ



同一 PC でデータ移行を行った場合は、先に ApeosWare Management Suite 1.4 をアンインストールしてから下記の手順を行います。そのとき、システムフォルダー（例：C:\Windows\System32）に log4cxx.dll が格納されていることを確認し、削除はしないでください。

1. ApeosWare Management Suite の管理者画面にアクセスし、[サービス設定] > [プリント管理] > [プリントサーバー一覧] から [プリントサーバーの追加] を行います。

2. 論理プリンターを関連づけます。

- (1) 一括設定ツールを起動し、論理プリンターの [システムから属性取得] を実行します。
- (2) 論理プリンターに対して、[プリントサーバー] を設定します。
- (3) 論理プリンターに対して、機器グループ、または機器との関連づけを設定します。
- (4) [システムに属性設定] を実行します。
- (5) 同一 PC でデータ移行を行った場合、Windows 共有プリンターがオフラインになっているので、[プリンターをオフラインで使用する] のチェックマークを外してオンラインに変更します。

設定ファイルを開く

1. 移行ツールが出力した以下の設定リストファイルを Excel などですべて開きます。

設定リストファイル名	ファイル名
Identity Management 設定ファイル	IdentityManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv ^{*1}
Device Management 設定ファイル	DeviceManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv ^{*1}
Authentication Management 設定ファイル	AuthenticationManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv ^{*1}
Log Management 設定ファイル	LogManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv ^{*1}
Print Management 設定ファイル	PrinterManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv ^{*1}
Flow Management 設定ファイル	FlowManagement_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv ^{*1}
Update Service 設定ファイル	UpdateService_setting_yyyymmdd-hhmmss.csv ^{*1}

*1 yyyymmdd-hhmmss は、年月日 _ 時分秒を示します。

システム管理の設定

1. Web ブラウザーから ApeosWare Management Suite にアクセスし、システム管理者でログインします。
2. [システム設定] > [ネットワーク設定] の順にクリックします。
3. Identity Management 設定ファイルにある [メール送信の設定] 情報、Device Management 設定ファイルにある [メール送信の設定] および [通信オプションの設定] 情報を参照して、SMTP サーバーを設定します。



『機能ガイド』の「2. システム設定」>「Web ブラウザーからの設定」>「ネットワーク設定」

96			
97	メール送信の設定		
98	送信者名		
99	送信者メールアドレス		
100	SMTPサーバー名		
101	SMTPポート番号	25	
102	SMTP送信の認証		
103			
104			

ApeosWare Management Suite Apeos Administrator (apeos_admin) - ログアウト Language - 日本語 ユーザーポータル ヘルプ **FUJIFILM**

ポータル レポート 機器・ジョブ状態 サービス設定 **システム設定**

共通設定 **ネットワーク設定** システム設定 / 共通設定 / ネットワーク設定

通貨設定 ネットワーク設定

表示設定 各サービスに共通に使用するネットワークの設定を行います。

ジョブログ設定 **SMTP/POP3/IMAP** SNMP HTTP

一時保存フォルダー設定

管理者パスワードの変更 ☒ 直接アドレスを入力

サービスの表示順序設定

セキュリティ設定 ☐ リストから選択 更新

操作パネルのカスタマイズ設定

外部端末設定

消耗品の使用状況の保存設定

システム情報

お知らせ

ライセンス情報

サーバーの種類の選択

POP3 - サーバー名

POP3 - ポート番号(受信用)

POP3 - SSL(受信用) ☐ ⓘ

SMTP送信の認証

SMTP - 送信タイムアウト

SMTP - 接続タイムアウト

SMTP - サーバー名

SMTP - ポート番号

SMTP - Start TLS(送信用) ☐ ⓘ

SMTP - 送信元のメールアドレス

テストメールの送信先アドレス

テストメールの送信

適用 リセット

Identity Management 設定ファイルの属性名 Device Management 設定ファイルの属性名		2.2 管理者画面 [システム設定] > [ネットワーク設定]
Identity Management	送信者メールアドレス	SMTP - 送信元のメールアドレス
Identity Management	SMTP サーバー名	SMTP - サーバー名
Identity Management	SMTP ポート名	SMTP - ポート番号
Identity Management	SMTP 送信の認証	SMTP 送信の認証
Device Management	通信オプションの設定 : SMTP 接続タイムアウト	SMTP - 接続タイムアウト
Device Management	通信オプションの設定 : SMTP 通信タイムアウト	SMTP - 通信タイムアウト

ユーザー管理の設定

1. Web ブラウザーから ApeosWare Management Suite にアクセスし、システム管理者でログインします。
2. [サービス設定] > [ユーザー管理] > [認証機能の設定] の順にクリックします。
3. Identity Management 設定ファイル中にある、[認証機能の設定] を参照し、管理者画面からユーザー管理

の認証機能を、以下のとおりに設定します。



参照

『機能ガイド』の「4. ユーザーの管理」>「Web ブラウザーからの設定と確認」>「認証機能の設定」

Identity Management 設定ファイルの 属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [ユーザー管理] > [認証機能の設定]
最終ログイン日からの有効期間	ユーザーの最終ログイン日からの有効期間
最小文字数	最低文字数
必ず含まなければならない文字種	使用を必須にする文字種
有効期限の設定	パスワードの有効期限
パスワードの再利用	パスワードの再利用の制限
パスワードの再利用回数	再利用を制限する過去のパスワード数
ログイン失敗時のロックアウト	ログイン失敗時のロックアウト

	A	B
38		
39		
40	認証機能の設定	
41	カード検索順序	ローカル優先
42	外部ドメインと通信できない場合に次のドメインへの認証確認	FALSE
43	属性検索のグローバルカタログを利用する	FALSE
44	大文字小文字の区別	FALSE
45	認証モード	自動ログイン
46	自動ログインの有効期間	10080
47	サーバー再起動時に自動ログインを継続	TRUE
48	最終ログイン日からの有効期間	30
49	最小文字数	8
50	必ず含まなければならない文字種	英小文字,数字
51	有効期限の設定	FALSE
52	パスワードの再利用	TRUE
53	パスワードの再利用回数	5
54	ログイン失敗時のロックアウト	FALSE
55	ジョブリスト時のサブユーザー指定	FALSE
56	サブユーザーでの認証	FALSE
57	デフォルトレルム	ローカルユーザー
58	パスワードが未設定のローカルユーザーの認証	FALSE
59	タイムアウト時間	自動
60		

サービス設定 / ユーザー管理 / 認証機能の設定

☒ 認証機能の設定
認証機能の設定を行います。

ユーザー認証の設定

☐ ユーザー自己登録を許可する ⓘ

☐ ログイン失敗時のロックアウト ⓘ

*ユーザーの最終ログイン日からの有効期間(1-365日) ⓘ
30 — + 日

*外部認証タイムアウト ⓘ
自動 ▾

☐ 外部の認証情報参照時にローカルユーザーデータを更新 ⓘ

☒ カード認証時にローカルを優先する

☒ カード認証時にActive Directory/LDAPへのユーザーの有効性を確認する ⓘ

☐ 複合機で認証時のPIN/パスワードの強制 ⓘ

*認証モード ⓘ
☐ カード認証 (複合機のみ)

PIN/パスワードの基本設定

*最低文字数
4 — + (0 - 50 文字)

使用を必須にする文字種

☐ 数字 (0, 1, 2,...,9)

☐ 英大文字 (A, B, C,...,Z)

☐ 英小文字 (a, b, c,...,z)

☐ 記号 ⓘ

PIN/パスワードの詳細設定

☒ パスワードの再利用の制限 ⓘ

*再利用を制限する過去のパスワード数
5 — +

☐ パスワードの有効期限 ⓘ

機器の認証情報の保存設定

4. 移行元 (ApeosWare Management Suite 1.4) で外部ユーザー同期を使用している場合、以下の設定を行います。

(1) Identity Management 設定ファイルの [外部ドメイン情報 (Active Directory)] および [外部ドメイン情報 (LDAP)] 情報を利用して、AD/LDAP サーバーを登録します。



参照

『機能ガイド』の「4. ユーザーの管理」>「Web ブラウザーからの設定と確認」>「ドメイン一覧」>「ドメインを追加する」

	A	B	C	D
1	外部ドメイン情報 (Active Directory)			
2	外部ドメイン情報 (Active Directory) 1			
3	ドメイン名	at.local		
4	ドメインユーザーの照会用ログイン名	Administrator		
5	Active DirectoryサーバーとLDAPS通信する	FALSE		
6	スコープ			
7	スコープ1	OU=AWMS User,DC=at,DC=local		
8	認証するドメインコントローラーの優先順			
9				
10				
11	外部ドメイン情報 (LDAP)			
12				

(2) Identity Management 設定ファイルの [外部ドメイン情報 (Active Directory)] および [外部ドメイン情報 (LDAP)] 情報を参照し、ユーザーインポート設定のドメインと管理の対象範囲を指定します。



参照

『機能ガイド』の「4. ユーザーの管理」>「Web ブラウザーからの設定と確認」>「ユーザーインポート一覧 [ユーザーインポート] タブ」

設定リストファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [ユーザー管理] > [ユーザーインポート一覧] > [インポートの作成] の [取り込み元の詳細]
ドメイン名	ドメイン
スコープ	管理の対象範囲

	A	B	C	D
1	外部ドメイン情報(Active Directory)			
2	外部ドメイン情報(Active Directory) 1			
3	ドメイン名	at.local		
4	ドメインユーザーの照会用ログイン名	Administrator		
5	Active DirectoryサーバーとLDAPS通信する	FALSE		
6	スコープ			
7	スコープ1	OU=AWMS User,DC=at,DC=local		
8	認証するドメインコントローラーの優先順			
9				
10				
11	外部ドメイン情報(LDAP)			
12				

⊕ ユーザーインポート

*必須項目

取り込み元の選択 取り込み元の詳細 属性の対応づけ 対応づけの確認 スケジュールの設定

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

取り込み元

*ドメイン ▼

*管理の対象範囲 選択 ⓘ

フィルター ⓘ

インポートの処理方法 ☐ 追加 ☐ 更新 ☒ 追加/更新 ☐ 削除 ☐ すべて

戻る 次へ キャンセル

- (3) Identity Management 設定ファイルの「ユーザー同期の設定 - 基本設定 (Active Directory 用 /LDAP 用)」情報を参照して、Active Directory/LDAP の属性値とユーザー管理上のユーザー属性を関連づけます。

	A	B
61		
62	ユーザー同期の設定-基本設定(Active Directory用)	
63	アカウント形式	SAM形式
64	ユーザーIDとして	sAMAccountName
65	ユーザー名として	displayName
66	カードIDとして	description
67	機器のパスワードとして	LocalProperty
68	メールアドレスとして	mail
69	個人番号として	sAMAccountName
70	所属として	department
71	保存先として	LocalProperty
72		
73		
74	ユーザー同期の設定-基本設定(LDAP用)	
75	LDAPユーザーオブジェクトクラスとして	user
76	LDAPグループオブジェクトクラスとして	organizationalUnit
77	ユーザーIDとして	uid
78	ユーザー名として	displayName
79	カードIDとして	LocalProperty
80	機器のパスワードとして	LocalProperty
81	メールアドレスとして	mail
82	個人番号として	employeeNumber
83	所属として	department
84	保存先として	LocalProperty
85		

ユーザーインポート

*必須項目

取り込み元の選択 取り込み元の詳細 属性の対応づけ 対応づけの確認 スケジュールの設定

1 2 3 4 5

ユーザーの設定 1

属性の対応づけ	値
名	{givenName} ✓ +
姓	{sn} ✓ +
表示名	{displayName} ✓ +
ふりがな	✓ +
索引文字	✓ +
メールアドレス	{mail} ✓ +
*ユーザーID	{sAMAccountName} ✓ +
代替ユーザーID	✓ +

☒ ユーザーのユーザーグループへの関連づけ

ユーザーグループ	値
関連づけるユーザーグループ	☐ 既存 ☒ 新規作成
新規作成方法	☐ 属性/グループ名を指定 1 ☒ OUを指定 1
グループを作成するOU	☒ すべてのOU 1 ☐ OU階層を指定 1
親ユーザーグループ*	Default Group 変更
アクセスプロファイル	なし ▼

戻る 次へ キャンセル

- (4) Identity Management 設定ファイルの「ユーザー同期の設定 - 基本設定 (Active Directory 用 /LDAP 用)」情報、および Device Management 設定ファイルの「ユーザー同期設定：グループ運用モード」を参照して、OU とユーザー管理のユーザーグループ属性を関連づけます。



参照

『機能ガイド』の「4. ユーザーの管理」>「Web ブラウザーからの設定と確認」>「ユーザーインポート一覧 [ユーザーインポート] タブ」

	A	B
1	代替表記	
2		
3		
4	ユーザー同期設定: グループ運用モード	通常同期
5		
6		
7	機器の反映条件: 機器に自動反映する方法	未反映情報を定期的に機器へ反映する
8	機器の反映条件: 反映間隔	10分ごと
9		
10		
11	状態通知設定	
12		
13		
14	機器の自動検索: 自動検索スケジュール	検索しない
15		
16		
17	メール送信の設定: 送信者	
18	メール送信の設定: SMTPサーバー名	
19	メール送信の設定: SMTPポート番号	25
20	メール送信の設定: SMTP送信の認証	No Authentication Required
21		
22		
23	通信オプションの設定: SNMPリトライ間隔	5000
24	通信オプションの設定: SNMPリトライ回数	2
25	通信オプションの設定: SMTP接続タイムアウト	60000
26	通信オプションの設定: SMTP通信タイムアウト	60000
27		
28		
29	日付表示の設定	yyyy/mm/dd
30		
31		

④ ユーザーインポート

*必須項目

取り込み元の選択 取り込み元の詳細 属性の対応づけ 対応づけの確認 スケジュールの設定

1 2 3 4 5

ユーザーの設定 ⓘ

属性の対応づけ	値
名	{givenName} ⓘ +
姓	{sn} ⓘ +
表示名	{displayName} ⓘ +
ふりがな	ⓘ +
索引文字	ⓘ +
メールアドレス	{mail} ⓘ +
*ユーザーID	{sAMAccountName} ⓘ +
代替ユーザーID	ⓘ +

☒ ユーザーのユーザーグループへの関連づけ

ユーザーグループ	値
関連づけるユーザーグループ	☐ 既存 ☒ 新規作成 ⓘ
新規作成方法	☐ 属性/グループ名を指定 ⓘ ☒ OUを指定 ⓘ
グループを作成するOU	☒ すべてのOU ⓘ ☐ OU階層を指定 ⓘ
親ユーザーグループ*	Default Group 変更
アクセスプロファイル	なし ⓘ

戻る 次へ キャンセル

Device Management 設定ファイル	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [ユーザー管理] > [ユーザーインポート一覧]	設定値
-	関連づけるグループ	新規作成
グループ運用モード	新規作成方法	属性同期の場合: [Device Management] 設定ファイルに記載されている属性を指定 通常同期の場合: OU を指定
-	親ユーザーグループ	(任意)

- (5) スケジュールの設定は動作確認のため「手動更新」に設定し、その他の項目は任意でユーザーインポートの設定を作成します。
- (6) 作成したインポート設定を使い、外部ユーザーのインポートが行えることを確認します。
- (7) インポート設定のプロパティを表示し、スケジュール設定を適切な頻度で設定し直します。

機器管理の設定

1. Device Management 設定ファイルの以下の項目を参照し、機器の自動反映設定、および自動登録設定を行います。



参照

『機能ガイド』の「3. 機器管理」>「Web ブラウザーからの設定と確認」>「機器の自動登録の設定」、「機器データの反映条件の設定」

設定リストファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [機器管理] > [設定] > [機器データの反映条件の設定]
機器の反映条件：機器に自動反映する方法	自動反映スケジュール
機器の反映条件：自動検索スケジュール	反映間隔

設定リストファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [機器管理] > [設定] > [機器の自動登録の設定]
機器の自動検索：自動検索スケジュール	自動登録スケジュール

2. 「ツールで移行されないデータのバックアップ」(P.21) で Excel ファイルとして保存した、本体認証および外部認証での利用権限情報を、該当する機器グループで運用できるように、Excel ファイルの 1 行ごとにアクセスプロファイルとして追加します。

ファイルの見方は以下を参照してください。

⊕ アクセスプロファイルの作成

新規に作成するアクセスプロファイルの設定を行います。

*必須項目

アクセスプロファイルの設定 論理プリンターとの関連づけ **機器/機器グループとの関連づけ** 機器/機器グループの利用権限設定 概要

1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

機器グループとの関連づけ ☒ する ☐ しない 1

すべての機器グループを関連づける ☐

関連づける機器グループ *

追加 削除 すべて削除

☐ 機器グループ名 * 認証/集計モード

☐ Local 本体認証/本体集計 (本体認証)

50件 1 - 1(1件) 1

機器グループ名 ID : 機器グループ名
(ApeosWare Management Suite 2.2) では、機器グループ ID は使用しません。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
1	Local:local	ALLUSER	許可		許可		許可		許可		許可
2	Local:local	User001	禁止		禁止		禁止		禁止		禁止
3											
4											
5											
6											
7											

機器の利用権限

アクセスプロファイルの作成

新規に作成するアクセスプロファイルの設定を行います。

アクセスプロファイルの設定 論理プリンターとの関連づけ 機器/機器グループとの関連づけ 機器/機器グループの利用権限設定 概要

1 2 3 4 5

機器グループに利用権限を設定 ☒ する ☐ しない

機器グループ* プリント操作* コピー操作* スキャン操作* ファクス操作* その他

Local 白黒 カラー 白黒 カラー 許可する 許可する -

機器に利用権限を設定 ☐ する ☒ しない

戻る 次へ キャンセル

3. 手順 2 で作成したアクセスプロファイルを、「ツールで移行されないデータのバックアップ」(P.21) 作成した Excel ファイルに記載されている【ユーザー / ユーザーグループ】にすべて関連づけます。Excel ファイルの【ユーザー / ユーザーグループ】列が【ALLUSER】の場合、すべての【ユーザー / ユーザーグループ】に関連づけてください。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	機器グループ	ユーザー/グループ	コピー 白黒	上限値	コピー カラー	上限値	プリント 白黒	上限値	プリント カラー	上限値	スキャン 白黒	上限値	スキャン カラー	上限値	ファクス
2	Local/local	ALLUSER	許可		許可		許可		許可		許可		許可		許可
3	Local/local	user001	禁止		禁止		禁止		禁止		禁止		禁止		禁止
4															
5															
6															
7															

ALLUSER : すべてのユーザーに適用されるよう、アクセスプロファイルを関連づけます。

ジョブログ管理の設定

1. エクスプローラーを使い、ジョブログファイルを以下の場所に移動させます。
(移動先) {ApeosWare Management Suite のデータフォルダー} ¥joblog
(ApeosWare Management Suite のデータフォルダーのデフォルト : C:¥Fuji Xerox¥ApeosWare MS 2 ¥Data) Log Management 設定ファイルの以下の項目を参照し、ジョブログ機能に関する各機能を設定します。
2. Log Management 設定ファイルの以下の項目を参照し、ジョブログ機能に関する各機能を設定します。



参照

『機能ガイド』の「2. システム設定 / サーバーの監視」 > 「Web ブラウザーからの設定」 > 「ジョブログ設定」

Log Management ファイルの 属性名	2.2 管理者画面 [システム設定] > [共通設定] > [ジョブログ設定] > [ジョブログファイルの保存] タブ
ジョブログファイルの保存先	パス ([ローカル] に設定)
Log Management ファイルの 属性名	2.2 管理者画面 [システム設定] > [共通設定] > [ジョブログ設定] > [ジョブログ保持期間] タブ
ジョブログの保持期間	データベースにジョブログを保持する期間
Log Management ファイルの 属性名	2.2 管理者画面 [システム設定] > [共通設定] > [ジョブログ設定] > [集計設定] タブ
ジョブの所有者の特定に関する設定: ジョブの所有者 評価順序	ジョブの所有者の特定方法
ジョブの所有者の特定に関する設定: 不明ユーザー名 代替文字列	特定できない場合のユーザー名
日次集計データの再構築の設定: 次回レポート作成時 に日次集計データの再構築	集計結果の再構築

	A	B	C	D	E
1	ジョブログの保持期間	62			
2					
3					
4	料金情報				
5	料金情報1				
6	単価	10			
7	機種	*			
8	識別ID	*			
9	サービスの種類	*			
10	用紙サイズ	*			
11					
12					
13	出力カウント値の単位設定: 料金単位	円			
14					
15					
16	ジョブの所有者の特定に関する設定: ジョブの所有者評価順序	"カード番号, ユーザー名, ジョブオーナー名"			
17	ジョブの所有者の特定に関する設定: 不明ユーザー名代替文字列				
18					
19					
20	日次集計データの再構築の設定: 次回レポート作成時に日次集計データの再構築	FALSE			
21					
22					
23	ジョブログファイルの保存先	C:\Fuji_Xerox\ApeosWare_MS\JobLogs			
24					

3. Log Management 設定ファイルの以下の項目を参照し、システム設定を行います。



参照

『機能ガイド』の「2. システム設定 / サーバーの監視」 > 「Web ブラウザーからの設定」 > 「通貨設定」

Log Management ファイルの 属性名	2.2 管理者画面 [システム設定] > [共通設定] > [通貨設定]
出力カウント値の単位設定: 料金単位	通貨名

	A	B	C	D	E
1	ジョブログの保持期間	62			
2					
3					
4	料金情報				
5	料金情報1				
6	単価	10			
7	機種	*			
8	識別ID	*			
9	サービスの種類	*			
10	用紙サイズ	*			
11					
12					
13	出力カウント値の単位設定: 料金単位	円			
14					
15					
16	ジョブの所有者の特定に関する設定: ジョブの所有者評価順序	"カード番号, ユーザー名, ジョブオーナー名"			
17	ジョブの所有者の特定に関する設定: 不明ユーザー名代替文字列				
18					
19					
20	日次集計データの再構築の設定: 次回レポート作成時に日次集計データの再構築	FALSE			
21					
22					
23	ジョブログファイルの保存先	C:\Fuji_Xerox\ApeosWare_MS\JobLogs			
24					

プリントの管理設定

Print Management 設定ファイルの以下の項目を参照し、プリント設定を行います。



参照

『機能ガイド』の「7. プリントの管理と操作」>「Web ブラウザーからの設定と操作」>「プリント設定」

設定リストファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [プリント管理] > [プリント設定] > [プリントジョブ] タブ
ジョブの有効期間	ジョブの有効期間
ジョブ履歴の保存期間	ジョブ履歴の保存期間
どのユーザーのプリントジョブかを決定する情報 *1	どのユーザーのプリントジョブかを決定する情報
プリントデータのファイル出力	プリントデータのファイル出力

設定リストファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [プリント管理] > [プリント設定] > [オンデマンドプリント] タブ
ジョブ表示名に使う情報 *1	ジョブ表示名に使う情報
削除する先頭部分の文字列 *1	削除する先頭部分の文字列

*1 バージョン 1.4 では論理プリンターごとに設定できましたが、バージョン 2 以降では ApeosWare Management Suite システム単位での設定に変更されています。論理プリンターごとに複数の設定をしていた場合は、適宜運用方法を決定してください。

フロー管理の設定

1. Flow Management 設定ファイルの以下の項目を参照し、Flow Management Option の環境設定を行います。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「2. フローの環境設定」>「フローの使用環境を設定する」>「終了したジョブや削除したジョブの保存期間を設定する」

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [ジョブ履歴削除設定]
ジョブ履歴の保存有効期間: オリジナル文書	オリジナル文書

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [ジョブ履歴削除設定]
ジョブ履歴の保存有効期間：ジョブ属性	ジョブ属性
スケジュール	破棄処理の実行
開始時刻	開始時刻



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「2. フローの環境設定」>「フローの使用環境を設定する」>「処理禁止フォーマットを設定する」

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [システム共通設定]
処理禁止フォーマット	処理禁止フォーマットの編集
システムエラー通知（する / しない）	システムエラー通知の設定



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「2. フローの環境設定」>「フローの使用環境を設定する」>「各機能で参照するフォルダーやファイルを登録する」

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [各機能の設定] で [フォルダー] を選択
フォルダー：フォルダーリスト *1	フォルダー - フォルダーリスト設定

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [各機能の設定] で [属性加工データ取り込み] を選択
属性加工データ取り込み：フォルダーリスト *1	フォルダーリスト

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [各機能の設定] で [OmniPage (R) Barcode] を選択
OmniPage (R) Barcode：領域指定ファイルリスト *1	領域指定ファイルリスト

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [各機能の設定] で [アプリケーション連携] を選択
アプリケーション連携：実行ファイルリスト *1	実行ファイルリスト
アプリケーション連携：作業用フォルダーリスト *1	作業用フォルダーリスト

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [各機能の設定] で [属性加工データ出力] を選択
属性加工データ出力：文書出力用フォルダーリスト *1	文書出力用フォルダーリスト
属性加工データ出力：属性出力用フォルダーリスト *1	属性出力用フォルダーリスト

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [各機能の設定] で [フォルダー保存] を選択
フォルダー保存：フォルダーリスト *1	フォルダーリスト

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [サービス設定] > [各機能の設定] で [文書属性の対応表出力] を選択
文書属性の対応表出力：フォルダーリスト *1	フォルダーリスト

*1 複数行設定されている場合、すべてコピーして設定してください。

- 加工方法として [属性マッピング] を使用しているフローを開き、Flow Management 設定ファイルの以下の項目を参照し、文字エンコードを追加します。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「3. フローの設定」>「機能の詳細を設定する」>「[属性マッピング] 機能を設定する」

Flow Management 設定ファイルの属性名	2.2 管理者画面 [サービス設定] > [フロー管理] > [フロー一覧] > [新規作成] または [編集] で [加工方法] に [属性マッピング] を選択
文字エンコード *1	文字エンコード

*1 複数行設定されている場合、すべてコピーして設定してください。



補足

デフォルトとして設定済みの場合は追加しません。

- フロー定義に含まれるユーザー権限を新たに付け直します。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「2. フローの環境設定」>「[フロー作成者] を設定する」



補足

Administrator がフロー定義管理者に追加されていた場合は、ユーザー権限を新たに追加する必要はありません。

- [プリンター出力] 機能を含むフローを移行した場合、機器を設定し直してください。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「3. フローの設定」>「機器の詳細を設定する」>「[プリンター出力] 機能を設定する」

- [外部アクセス連携] 機能を含むフローを移行した場合、Flow Management 2.2 で新規追加された [出力フォーマット設定] は初期値の [TIFF(マルチページ)] が設定されるので、必要に応じて変更してください。



参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』の「3. フローの設定」>「フローを操作する」>「フローを編集する」



補足

[出力フォーマット設定] については『機能ガイド Flow Management Option 編』の「3. フローの設定」>「機能の詳細を設定する」>「[フォルダー] 機能を設定する」を参照してください。

共有プリンターの作成

移行元の 1.4 の環境で共有プリンターを使っていた場合、同一のプリンタードライバをインストールし、共有プリンターとして設定します。このとき、プリンターポートは ApeosWare Management Suite が自動生成したものにしてください。



補足

共有プリンターのプリンターポートは、移行後、すべて設定しなおす必要があります。

移行先設定のエクスポート

Diagnostics Utility（診断ツール）を使い、移行した ApeosWare Management Suite 2.2 環境の設定をすべてエクスポートします。



参照

『機能ガイド』の「12 メンテナンス」>「Diagnostics Utility を使用する」

1. Diagnostics Utility（診断ツール）を起動します。
2. [情報取得] タブをクリックします。
3. [取得対象情報の一覧] から [ApeosWare Management Suite 情報] を選択し [取得開始] を押します。
4. [ファイル保存] のダイアログボックスが表示されるので、出力先フォルダーとファイル名を指定します。
5. 以下の設定データリストを含むファイルがエクスプローラーに表示されます。Excel などを開き、「ApeosWare Management Suite 2.2 の設定」（P.29）の設定リストファイルに記載されている内容と違いがないことを確認します。

エクスポートされる機能	設定ファイル名
ApeosWare Management Suite 2.2 共通	Common_setting2_YYYYMMDD-HHMMSS.csv
機器管理	DeviceManagement_setting2_YYYYMMDD-HHMMSS ^{*1} .csv
プリント管理	PrinterManagement_setting2_YYYYMMDD-HHMMSS ^{*1} .csv
スキャン設定と文書管理サービス設定	ScanConnectorManagement_setting2_YYYYMMDD-HHMMSS ^{*1} .csv
ユーザー管理	UserManagement_setting2_YYYYMMDD-HHMMSS ^{*1} .csv
フロー管理	FlowManagement_setting2_YYYYMMDD-HHMMSS ^{*1} .csv

*1 ファイル名の YYYYMMDD-HHMMSS は年月日および時分秒を表します。

動作確認

移行した環境で正しく ApeosWare Management Suite が動作するか確認します。

機器一覧で反映する機器グループの  をクリックし、[反映] を選択して機器の情報を機器本体へ反映します。



補足

この操作をしなくても、設定した機器の情報は、「機器管理の設定」（P.38）の、機器データの反映条件の設定で指定した間隔（初期値は 10 分）または時刻に、自動的に機器に反映されます。この操作は、設定した内容をすぐに反映したい場合に実行します。

Flow Management 1.4 のアンインストール

移行元である Flow Management 1.4 をアンインストールします。アンインストール手順については、『ApeosWare Management Suite 1.4 管理者ガイド セットアップ編（別冊）』を参照してください。

Print Management 1.4 のアンインストール

移行元である Print Management 1.4 をアンインストールします。アンインストール手順については、『ApeosWare Management Suite 1.4 管理者ガイド セットアップ編（別冊）』を参照してください。

ApeosWare Management Suite 1.4 のアンインストール

移行元である ApeosWare Management Suite 1.4 をアンインストールします。アンインストール手順については、『ApeosWare Management Suite 1.4 管理者ガイド セットアップ編（別冊）』を参照してください。

移行ツールのログ

移行ツールのログは以下に格納されています。（監査ログは出力しません）
弊社に問い合わせするときは、以下のログファイルも送付してください。

ApeosWare Management Suite 1.4 での実行時

<DataFolder>%Data%Basic Module%logs%AWMS-datamigration-system-yyyy-mm-dd.log（動作ログ）

<DataFolder>%Data%Basic Module%logs%AWMS-datamigration-debug-yyyy-mm-dd.log（デバッグログ）



補足

初期設定を変更していない場合の <DataFolder> は、「C:%Fuji Xerox%ApeosWare MS」です。

ApeosWare Management Suite 2.2 での実行時

<DataFolder>%Data%Logs%AWMS-datamigration-system-yyyy-mm-dd.log（動作ログ）

<DataFolder>%Data%Logs%AWMS-datamigration-debug-yyyy-mm-dd.log（デバッグログ）



補足

初期設定を変更していない場合の <DataFolder> は、「C:%FUJIFILM%ApeosWare MS」です。

注意制限事項

- 物理プリンター、および論理プリンターの状態は、常に「Enabled」として移行されます。
- ApeosWare Management Suite 1.4 で「オンデマンド - 制限」、「直接印刷 - 制限」を選択していた場合、ApeosWare Management Suite 2.2 では、それぞれ「オンデマンド」、「直接」として移行されます。
- ApeosWare Management Suite 1.4 と ApeosWare Management Suite 2.2 では、サポートされる対応機種が異なります。ApeosWare Management Suite 2.2 でサポートされていない機種のドライバーデータは移行されません。
- MigrationTool.exe の実行でエラーが発生した場合は、次のようにしてください。
 - ・ エクスポート処理の場合は、原因を取り除き、途中までバックアップしたデータを削除してから、再び実行してください。
 - ・ インポート処理の場合は、ApeosWare Management Suite 2.2 を新規にインストールされた状態に戻し、原因を取り除いてから、再び実行してください。